



紙



続ける力

ニューズレター  
第二十七号

二〇一七

# NEWS LETTER

2017 VOL.27

続ける力

DESIGNPHIL NEWS LETTER

デザインフィル ニュースレター 第27号

発行日 | 2017年2月10日

企画・編集 | マーケティング部 広報グループ

TEL 03-5789-8058 FAX 03-5789-8470

株式会社デザインフィル

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー 9F

[www.designphil.co.jp](http://www.designphil.co.jp)

DESIGNPHIL

## PRESIDENT MESSAGE

# AI ロボット IoT・・・



代表取締役社長

会田 一郎

新聞紙上でAI、IoT(注)という単語を目にしない日はありません。確実に私たちの生活に浸透してさまざまなモノ・コトの有り様を変えつつあります。その変化のスピードは私たちがこれまでに想像していたペースを大きく上回っているのです。チェスに続き囲碁や将棋もコンピュータが人に勝り、クルマは完全自動運転が目前、ロボット導入の先進工場では機械であるロボットが機械を製造しています。フィンテック(注)で金融サービスも人工知能がこなすようになる。そして経営の意思決定サポートもすぐそこまで来ていますが、これらはこの3年ぐらいで一気に進んだ感があります。この先どこまで行くのでしょうか？

労働人口の激減に見舞われる日本は、恩恵を最も受けるという見方ができます。そして先進技術の提供者であれば、自ら国内市場で経験を積み、巨大なグローバル成長市場の主役となることが可能です。仕事を奪われるという被害者的発想でなく、仕事の担い手不足を補完して生活の質を向上するという前向きな見方が重要です。日本の農業就労人口は右肩下がりの減少で192万人となり、65歳以上が半数を超えます。このままではさらに高齢化は進行して10年もすると危機的状況になりかねません。こうした担い手不足の分野では機械に職を奪われるというのは杞憂に過ぎず、自動運転の耕運機、田植え機、収穫機やドローンによる作付け管理などで労働力不足を補わなければ国産農作物の収穫はおぼつかなくなります。一方で、この必要に迫られた環境は変革者にとってはチャンスでもあるのです。

人と機械の分業はどうなっていくのでしょうか？クルマの自動運転は未然に事故を防ぎ、行列計算で渋滞を解消し、買い物難民の足になります。事故確率が激減したら保険は成り立つのでしょうか？運転そのものの楽しさは奪われてしまわないのでしょうか？また、自走するクルマが課金されながら駐車場に停まっている必要はありません。そもそも必要な時と場所(自宅を含め)にクルマが来てくれれば、クルマを所有する必要もなくなるので、ここでもまた新たなシェアリングのサービスが登場するでしょう。

アマゾンであらゆる商品が自宅玄関まで届けられるというのも、少し前であれば未来の話でした。レシピサイトから1週間分のメニューを選ぶと食材の所要量を計算、冷蔵庫ストック分を引いて買い物リスト提案と同時にネットスーパーに発注、指定された時間に自動運転車が玄関前に届けることもすでに現状の技術で可能です。受益者が急増し、サービスの従事者が慢性的に足りない介護もロボットなどの技術が不可欠になるでしょう。2日に1度の入浴を毎日に、投薬の量や時間も間違いなく正確に、24時間健康状態や徘徊などの異常を検知できるセンサーとネットワーク技術の恩恵無くして、近未来の安らかな老後は成立し得ないのかもしれない。一方で人工知能の緊急停止装置をGoogleが開発していると聞きます。それも人工知能本体に悟られないよう、ネットワークに接続せずに開発中というからまさにSFのような話です。

これらの社会変化は私たちの製品にも大きな影響を与えるでしょう。古典的な心配としてはデジタル技術に紙とペンを中心としたステーションナリーが置き換えられるというものが、コミュニケーションやライフスタイルという高い視点で俯瞰すれば、目の前には大きなチャンスが到来しているはずです。

そのことに気づくかどうか私たちが課題だと考えています。

IoT … 「Internet of Things」。世の中に存在するさまざまな物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

フィンテック … AI技術を使った投資提案など新たな金融サービス。ファイナンス(Finance)とテクノロジー(Technology)の二つを併せた造語。



## 2017年「紙シリーズ」が発売十周年を迎えました。

「紙シリーズ」は、日本人が大切にしてきた美意識を表現した便箋と封筒のシリーズです。千年もの時を重ねてきた伝統素材の和紙を用いて、四季折々の花と季節のうつろいを大胆な構図でデザインしています。今号ではその十年の軌跡をご紹介します。



SPECIAL  
EDITION  
1



紙  
シリーズ  
十年の軌跡



き  
つ  
か  
け

十年前、メールの普及が進み、コミュニケーション手段としての「手紙」は減少傾向にありました。でも「手紙」が届ける温かさや、日本人らしい心遣いは変わらないはず。使う方が本当に求めるのは、少し高くても和紙の書き心地と佇まいをうれしく思い、言葉を多く書かなくても気持ちが伝わる紙面のデザインだと確信。素材もデザインも大きく変革させて「紙シリーズ」は生まれたのです。



想  
い

白い花がより冴えわたり  
妖艶な美しさをます夜の桜

早朝、清々しい朝露に濡れて  
開く夏の花

紅葉が美しく燃える、秋の日

手紙を送る人、受け取る人が、そんな季節の美しい一瞬を感じられるような、百花繚乱のコレクションを目指しています。



## デザインのこだわり

### 文字が少なくても さまになるデザイン

手紙を書くのが苦手な人は、便箋を前にすると白い紙面に恐怖を感じるそうです。文字数は少なくてもさまになる紙面デザインが「紙シリーズ」の真骨頂。そのデザインは、屏風や襖絵に描かれた花鳥風月と、和歌や言葉書きの絶妙な配置から学びました。すーっと文字を書きたくなる。そんな余白を大切にしています。

### 手描きのこだわり

やわらかな表情が出るように、原画はすべて手描きです。花びらや萼、茎、葉、雌しべなど、パーツに分けた原画を描いてからパソコン上で花を組み立てています。パソコンの画面上でイメージどおりに花を咲かせていくときは、一番気持ちが高揚する瞬間です。花そのままの姿を写すのではなく、使う方の「美しい季節の記憶」とリンクするようなデザインを心がけています。

### 和紙のこだわり

越前、伊予、土佐など和紙の伝統産地で、便箋の中紙、表紙、封筒に合わせた紙厚、筆記適正を持たせた和紙を特別に漉いています。朝露に濡れる清々しい朝顔のデザインには、涼しげな箕の目をほどこした越前和紙を、こっくりとした黄色や朱色の落ち葉のデザインには、伊予和紙のふかふかした温かみのあるクリーム色を、季節のデザインに合わせてふさわしい質感の和紙を吟味しています。

## 「紙シリーズ」デザイナー 浅岡美香

「紙シリーズ」の144柄は、この十年間でどんな方が手に取り、そして何百、何千通の手紙が届けられたのだらうと考えます。それはデザイナーにとってこのうえない喜びです。季節を先取りし、季節に追われながらも、「美しい」と褒めていただけるようなデザインをこれからも目指し続けていきます。



### 流山工場との絆

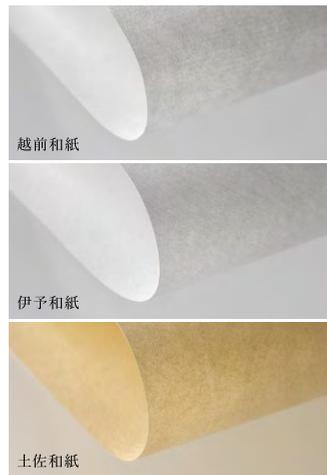
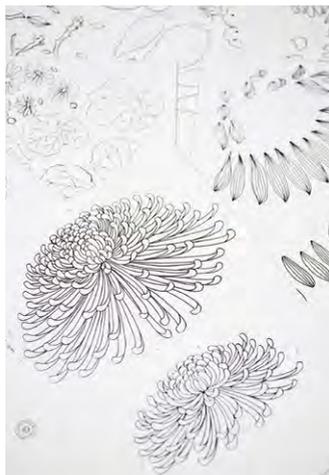
和紙に印刷するとインキが沈み込むので、美しい色合いを出すのはとても難しいとされています。花を美しく咲かせる「紙シリーズ」に流山工場のスタッフも最初はとても苦労しました。でも、今では、多くを語らずとも「紙シリーズ」ならではの色を理解し、デザイナーの望む微妙なニュアンスを表現してくれる頼もしい存在です。

### 十周年記念イベント ～季ごと～開催

2017年1月に、東京「青山スパイラル・showcase」と「高島屋京都店」で十周年イベントを開催しました。これまで発売した144柄を壁一面に展示し、まさに会場は百花繚乱の装いに。イベントならではの限定アイテムやオーダー便箋などを販売し、ファンの方をはじめ、たくさんのお客さまで賑わいました。

### 「紙シリーズ」の意匠を さまざまなアイテムに

新製品「桜」をはじめ、100柄のはがき、贅沢に金ラメシルク印刷のみでデザインされた特別な便箋・封筒、便箋を収納できる文箱、さらには椿や蓮を大胆に構図し詠えたスカーフなど、日本伝統の美意識をベースにした他にはない意匠性、独自の解釈で表現したアイテムをご紹介しました。和紙だけでなく、桐箱や京織物、手ぬぐいなど、さまざまな素材のアイテムに「紙シリーズ」のデザインを施したイベントだけの限定アイテムが揃いました。



MIDORI PRODUCTS

XS

Stationery Series

※製品の写真は実物大です。

機能性と携帯性を追求した  
とっても小さいステーションナリーシリーズ

2016年10月に「ミドリ」のロングセラー「CL(カラスステーショナリー)」シリーズの名称を変更し、「XS(エックスエス)」が誕生しました。サイズ表記に用いられるExtra Small(エクストラ スモール)が由来で、その名の通り世界最小クラスのステーションナリーシリーズです。リニューアルに伴い、パッケージも一新し、一部製品の機能もパワーアップしました。全アイテムあわせても重さはわずか80g。小さくても機能面・使用感は抜群です。

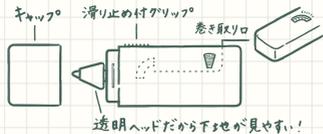
## CORRECTION TAPE

世界最小クラスの修正テープ

本体の前面を透明にして、テープの残量を確認しやすくしました。わずか5cmの本体サイズに、5mm幅の修正テープが4.2m入っている、小さくても優秀な使い切りタイプの修正テープです。



GOOD DESIGN



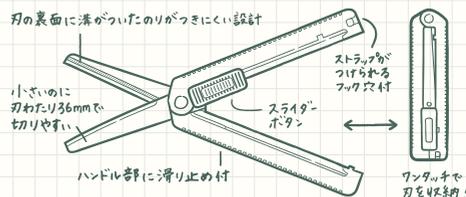
## COMPACT SCISSORS

ワンタッチで刃を収納! とっても小さなハサミ

使用時や収納時に誤って刃がスライドしないようにロック機能を付けたほか、刃の設計を見直し、切れ味も大幅アップしました。刃先でボール紙もすいすい切ることができます。刃が収納できるので、携帯時にポケットに入れても安心です。



GOOD DESIGN



## GLUE TAPE

使い勝手にこだわった  
とっても小さなテープのり

形状・構造を見直し、持ちやすい形とテープ切れの良いドットタイプのテープのりに変更し、機能面が大幅アップ! テープの残量が一目で分かるよう、本体の前面を透明にしました。

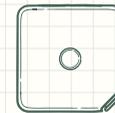


GOOD DESIGN

## MEASURE

コンパクトなボディに工夫がたくさんのメジャー  
薄さ約1cmの本体に、巻き癖がつきにくく伸び縮みが少ないグラスファイバーテープのメジャーを1.5m収納。10cm毎に白黒に色分けされた目盛は読みやすく、使いやすさも抜群です。

GOOD DESIGN



巻き癖がつきにくく、伸び縮みが少ないグラスファイバーテープ



10cm毎に白黒に色分けされた見やすい目盛



透明ヘッドだから下地が見やすい!



テープ切れの良いドットタイプ!



## STAPLER



たたんで収納できる!  
コンパクトなホッチキス

金属製の押し刃をスライドしてください。

本体内側の金具をスライドすることで、折りたたむことができるホッチキスです。発売以来バージョンアップを繰り返してきたロングセラーアイテム。簡単に針を外せるリムーバー付きで、コピー用紙を約10枚まで綴じられます。



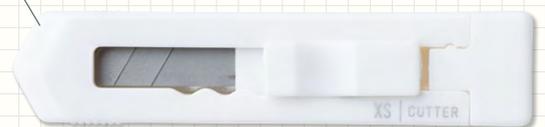
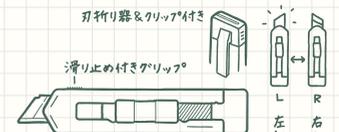
コピー用紙10枚まで綴じることができます!

## CUTTER

手のひらサイズの Cutter

刃折り器とクリップが付いたCutterです。利き手に合わせて刃の向きを変えられるので、右利き・左利きどちらの方でもご使用いただけるユニバーサルデザインです。

GOOD DESIGN



## XSシリーズ開発者インタビュー

XSシリーズの企画・開発を行っているメンバーは、自分たちの手掛けるプロダクトをこよなく愛し、発売直前ぎりぎりまで粘ってよいものを作ろう、という熱い気持ちを持った男たちです。今回のリニューアルにあたり、製品に込めた想いやこだわりなどの開発裏話をご紹介します。



長年に渡り「ミドリ」の金型成型品に携わり、数々のヒット製品を生み出す。社内一、声が大きい。

MY FAVORITE ITEM  
コンパクトホッチキス



中村とペアを組み、デザインを担当。イギリス仕込みの大きなアクションが特徴。

MY FAVORITE ITEM  
コンパクトホッチキス



新人時代からさまざまな山を乗り越えてきた経験豊富な若手スタッフ。声優並みの声を持つ。

MY FAVORITE ITEM  
修正テープ

Q: 今回、シリーズ名を変更してパッケージデザインも一新しましたが、リニューアルのきっかけは？



A: 「XS」の前身「CL」は、1992年発売のノートからスタートしました。実に25年も前のことです。最初のコンセプトは、「カラー、シンプル、ノンエイジ、ノンセックス」でした。長い年月の間に、今までにない機能性やコンパクトさをアイテムの特徴とした製品が生まれ、さまざまな進化や淘汰を繰り返して現在の姿になりました。安定した売り上げではありましたが、発売当初のカラーというコンセプトよりもコンパクトさの方が製品の特徴として際立ってきた時点で、再度、芯となるコンセプトを追求し確立すべく、リニューアルを決定。「世界最小の機能文具」として製品一つひとつの機能の見直しとパッケージ変更を行いました。

Q: 一番印象に残ったことは？

特に、コンパクトハサミの全面的なリニューアルは短期間の中で、よくできたと思います。現時点の市場にある小型携帯ハサミの中で、最小にして最高の切れ味だと自負しています。



Q: デザインのこだわりは？

A: ターゲットのユーザーが長〜く愛着を持てるような製品を目指してデザインしました。



Q: パッケージデザインの変更は社内でもいろいろな意見がありました。ここだけは譲れなかったというところは？

A: 紙製のパッケージです。「破けそう」などの意見もありましたが、他社製品との差別化に繋がったポイントだと思っています。



Q: 今回のリニューアルで「やった!」と思う瞬間はどんなこと？

A: なんと言っても、生の声で「いいねえ!」とお客さまに言っていただけたことです。期待と不安が入り交ざったお披露目の場で、「良くなった」「欲しい!」の声を聞けたときリニューアルの手応えを感じました。



Q: 今後はどんなモノを作りたいですか？

A: ずばり、筆記具です。ですが競合ひしめく厳しい世界。納得のいく製品になるまでは出せないで見果てぬ夢に終わるかもしれませんが、いろいろな実験は試みていくつもりです。



A: 「XS」のような幅広いターゲットに向けた安価なシリーズと違った、高価格帯の本格志向文具を開発していきたいです。

A: 素敵な洋服を身にまとっているときの高揚感に似た、持っていることで、その人が一日をいつもより少し楽しく過ごせるような、“勝負文具”を生み出したいと思っています。



まだまだある機能派文具たち

「XS」のほかにも、新機能、新デザインになった機能派文具が続々と登場します。詳しくは、「ミドリ」ホームページをご覧ください。 [www.midori-japan.co.jp](http://www.midori-japan.co.jp)

## 連用日記のすゝめ

連用日記をご存知ですか？同じ日にちに1年目、2年目…と数行ずつ書いていくタイプの日記です。継続していくと、昨年の今日、自分がどんなことをしていたかが一目でわかります。振り返る楽しさは連用日記ならではの。日記を始めたい方や長続きしない方に、連用日記の楽しみ方をご紹介します。

### 「ミドリ」の連用日記

連用日記が誕生したのは1960年代初め。以降、シニアから若年層まで対応した幅広いラインアップを展開しています。紙は書き心地にこだわった当社オリジナル「MD用紙」を使用。その日の気分や想いを気持ちよくつづることが出来ます。書き終えた後も大切に保管できるよう、すべての日記にしっかりとしたケースがついています。

### 歩み

1960年代初め



3年連用

幾歳月

当時の日記ユーザーはシニア世代がメイン。和の雰囲気漂うシックなデザインに

1992



3年連用

ウェイオブライブ

若い世代を意識した洋風デザインの3年連用日記

1995



3年/5年/10年連用

洋風

日記を書く層が広がり、洋風タイプの5年、10年連用もラインアップ

2012



3年/5年/10年連用

扉

さらに若い世代に向け、小ぶりなサイズを発売

2016



10年連用

扉

新色登場

三日坊主になってしまう、  
何を書いたらいいのか分からない、  
面倒くさそう…という方に。

日記を続けるコツは？

- ◆ 何も無い日は書かなくてもOK  
空白もまた、その日の出来事です
- ◆ テーマは設けず、日々の徒然なるままをつづる
- ◆ 2年目からが醍醐味！前の年を振り返り、楽しさが増していきます
- ◆ いつから始めてもよい



# 日記道

日記が楽しくなる丸箇条

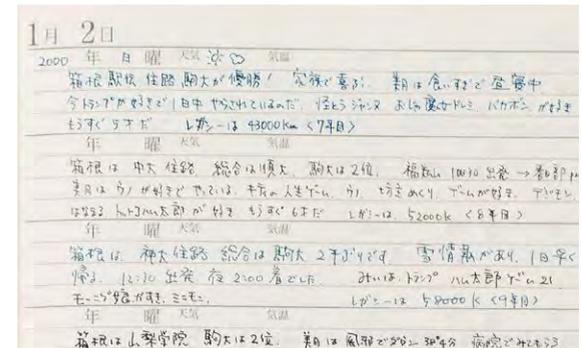
- 一、まずコーヒーを入れる。
- 二、日記と筆記具を持ってきて、姿勢を正してテーブルに座る。
- 三、表紙を表にして自分の正面に置く。
- 四、筆記具は万年筆がよい。
- 五、キャップを開けたら、目を閉じて深呼吸をする。
- 六、書くことがまとまったら、目を開けて紙をめがけ、一気にさらさらと書き上げる。
- 七、自分の想いが表現できたら、万年筆のインクが乾くまでコーヒーを飲みながら読み返す。
- 注！コーヒーをこぼさないよう細心の注意を払う。
- 八、気が向いたら前年のものを読み返して感傷に浸るのもよし。お！そうか。そろそろそんな時期か！など思い出してもよし。
- 九、一連の作業が終了したら、しおりを挟み、ボタンと閉じる。ふうつと全身の力を抜いてリラックスする。

### 製造スタッフの 日記体験記



石井 健

製造担当者になったときに、自分でも使ってみなくては！と思い、娘の誕生日からスタートしました。1年目は少々我慢が必要ですが(2冊目の1年目も同じ)、2年目から前年の出来事や自分の感情などを読み返す楽しさが増していきます。嬉しいときは文字が躍っていたり、落ち込んでいるときは文字が暗かったり。何年経ってもその時の情景が蘇るのは手書きならではの良さですね。私の決め事としては、「ネガティブなことや秘密ごとは書かない」こと。その方が、読み返す時に嫌な気持ちや恥ずかしくなることはありません。書くネタは、子どもの成長、家族の出来事、スポーツや園芸の記録、株価、為替など経済状況。記念日や誕生日(贈り物や出来事も書いておく)は、家庭円満にも役立ちます。難しいと思わず、気楽な気持ちでぜひ始めてみてください。



## トラベラーズカンパニーキャラバン

『トラベラーズノート』をはじめ、旅するように毎日を過ごすための道具を作るトラベラーズカンパニーが、キャラバン隊となって旅するイベント「トラベラーズカンパニーキャラバン」。今回の旅先は、ニューヨーク、香港、上海。さまざまな旅人たちとの出会いがありました。

### NY -ACE HOTEL NEW YORK-

ACE HOTELとトラベラーズカンパニーのコラボレーション第2弾を、2016年12月3日(土)、4日(日)にACE HOTEL NEW YORKで開催しました。アメリカ初開催の「スパイラルノートバイキング」、オリジナル仕様の『トラベラーズノート』、ACE HOTEL各地のアイコンとなるアートワークをモチーフとしたステッカー、さらにはACE HOTELとの親交の深いイラストレーターのマイケル・ペロー氏(ランド・ギャラリー)が描き起こしたイラストをプリントしたノートリフィルを製作しました。



### 香港 -LOG-ON Festival Walk-

2016年7月1日から1ヵ月間、「LOG-ON Festival Walk」にて、『トラベラーズノート』10周年記念展を開催しました。スターフェリーや香港トラムなど『トラベラーズノート』との縁も深い香港。10周年を祝うイベントをこの地で開催できたことは嬉しいことです。イベントに参加いただいたお客さまはみな笑顔で楽しそうに紙を選んだり、リングを綴じるのを眺めたり、カスタマイズを体験されていました。



1年間のキャラバンを終えて、『トラベラーズノート』に向かう気持ちやそこに何かを表現することの価値観は、どの国や地域も一緒だということを改めて感じました。10周年記念キャラバンは一旦終了しましたが、いつか世界中の『トラベラーズノート』ユーザーがどこかに集まり、皆でそれぞれのノートを見せ合うような機会があったら楽しいだろうな、と夢が膨らみます…。

### 上海 -新天地時尚 物心-

香港イベントの後に急遽開催が決定。初めての開催場所ということもあり、『トラベラーズノート』のユーザーがいるのだろうか、楽しんでいただけるのだろうかなど、不安な気持ちでスタートした上海イベント。いざ始まると、会場の前にはオープン前から長い列ができ、それぞれのスタイルで『トラベラーズノート』を使っているたくさんのユーザーとの出会いがありました。



※『トラベラーズノート』は株式会社デザインフィルの登録商標です。

## 『わたしだより』

### ～自分に送る 旅はがき～

2016年11月、当社とポスタルスクウェア株式会社の共同企画による、郵便局向けオリジナル製品として、東京・名古屋・京都・博多の4カ所の郵便局で販売を開始しました。

『わたしだより』は「自分宛に手紙を書く」という新しい手紙文化を提案する製品です。各地域のモチーフが描かれたはがきに、思い出を書いて旅先から自分宛に投函、帰宅後に届いたはがきをアルバムにストックすると旅日記が完成します。手紙を書く楽しさと、自分に手紙が届く感動体験と一緒に味わえる新しい手紙のカタチです。今後もさらなる展開を予定していますのでご期待ください。



## デザインフィル役員人事のお知らせ

2016年9月27日(火)、株式会社デザインフィル定時株主総会を恵比寿本社にて開催し、下記役員が承認可決されました。

### ■ 役員一覧 (2016年9月27日現在)

代表取締役社長	会田 一郎
専務取締役	豊田 栄一
取締役	太谷 博司
監査役(非常勤)	下川 良彦(株式会社キャム 代表取締役)

### 編集後記

昨年の『トラベラーズノート』に続き、2017年は「紙シリーズ」が10周年を迎えました。今号は、10周年を記念して「紙シリーズ」で使用している伊予和紙で製作しています。本文でも触れましたが、和紙は印刷で色を再現するのが難しい紙。前号の「MD用紙」に続き、またまたチャレンジでしたが、ここは流山工場とのおうんの呼吸で、無事に皆さまのお手元にお届けすることができました。続けること、そして、その経験を携えて進化すること。デザインフィルは今年も皆さまをあとと言わせるようなコトを行ってまいります。(編集長M.N)